

## 里山をまもりたい 第31回イオン環境活動助成 公募開始

公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役)は、6月24日(木)から、第31回イオン環境活動助成の公募を開始します。

イオン環境財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立されました。以来、時代とともに変化する環境課題に応じた様々な事業を継続実施しており、現在は「イオンの森づくり」「助成」「環境教育」「パートナーシップ」の4事業を柱にステークホルダーの皆さまとともにすすめています。

1991年より開始された助成事業は、国内外で地域に根差し、環境活動に積極的に取り組んでいる非営利団体を対象に、活動費の一部を支援するものです。毎年、基本テーマを設定して公募を実施しておりこれまでの30年間で、のべ3,153団体に総額28億7,177万円の助成を行ってまいりました。

本年の基本テーマは「里山コモンズ<sup>(※)</sup>の再生」です。過度の開発などによる荒廃や、自然資源の放置といった現在の里山の課題解決のため、里山の保全、里山の修復、里山の活用への取り組みが重要となります。人と自然との望ましい共生関係を、地域内外の多様な人々との連携で取り戻すことで、地球環境の持続性に貢献する、開かれた里山づくりを目指していきます。

地球環境問題が大きな社会課題として認識されるなか、豊かな自然環境を次代へ引き継ぐためには様々な環境活動の継続が必要です。当財団は今後も、地球市民として、環境活動を推進・支援し、助成事業を通じ、地域の皆さまとともに、地域に根差した環境活動に取り組んでまいります。

※コモンズ: 共有の資源

### 記

#### <第31回イオン環境活動助成 概要>

基本テーマ: 「里山コモンズの再生」

活動分野: 1. 里山(里地・里川・里湖・里海を含む)の保全・維持・管理  
2. 植樹を含む里山の修復  
3. 野生動植物・絶滅危惧生物の保護  
4. 自然資源の利活用  
5. 自然環境教育

助成総額: 1億円

対象団体: 持続可能な社会の実現に向け、環境活動に積極的に取り組んでいる非営利団体

活動対象期間: 2022年4月1日～2023年3月31日

募集期間: 2021年6月24日(木)～8月12日(木)

申込方法: ホームページからエントリー後、申請書を送付

\* 詳細につきましては、ホームページをご確認ください <http://www.aeon.info/ef/>

以上

## 【参考】

### ■第31回イオン環境活動助成 基本テーマ

地域で大切にされてきた里山は、現在開発による荒廃や、人手が入らずに劣化するなど、人と自然との共生関係が崩れかけています。望ましい共生関係を、地域内外の多様な人々との連携で取り戻していく。この「里山 commons の再生」を通じて、地球環境の持続性に貢献する里山づくりを目指します。



## 【イオン環境財団の主な活動事例】

### ■イオンの森づくり

イオンは、各国政府や地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。これまでの30年間、世界11カ国で植樹を行い、「イオンふるさとの森づくり」「イオン環境財団による森づくり」「イオン東北復興ふるさとの森づくり」と合わせ、イオングループ累計植樹本数は約1,223万本となっています。

また、「植える」活動に加え「育てる」「活かす」活動にも取り組んでおり、そのひとつがユネスコエコパークとして登録されている宮崎県東諸県郡綾町と連携した森づくりです。伐採時期を迎えた町有林の木を中学校の建設材に活用するとともに、伐採跡地に地域に自生する樹種を植えています。また森を中心とした環境教育を実施しており、綾ユネスコエコパークセンターでの教育の他、リモートセンシング技術を活用した森の状態を把握するための調査も実施しています。2020年12月に「綾町イオンの森」において森の炭素蓄積量の調査を綾ユネスコエコパーク、綾中学校、一般社団法人リモート・センシング技術センターとともに実施し、綾中学校の1年生64名が参加し、森の健康状態や、森づくりの大切さについて学習しました。



綾町(2019年)



植樹地から伐採された木材で建設された綾町立綾中学校



ユネスコエコパークセンターでの  
環境教育



炭素蓄積量調査

### ■イオンの里山づくり

時代に即した環境課題の解決を目指すため、2020年9月に早稲田大学環境総合研究センター内に「AEON TOWA リサーチセンター」を設立しました。本リサーチセンターは、これまでの経験や知見、学術研究を統合し持続可能な社会の実現を目指していくものです。森づくり、地域づくり、人づくりに取り組み「地球環境の持続性」「人と生活の持続性」「地域社会の持続性」という観点から新たな「イオンの里山」の構築を目指します。

<AEON TOWA リサーチセンターホームページ: <http://www.aeontowa.jp/>>

### ■環境教育

#### 「アジア学生交流環境フォーラム」

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的としてアジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする「アジア学生交流環境フォーラム」を実施しています。これまでにアジア10カ国の約600名の大学生が参加しました。8回目の2019年は「持続可能な平和のため」をテーマに、カンボジア・プノンペンとシエムリアップで開催し、王立プノンペン大学(カンボジア)・清華大学(中国)・インドネシア大学(インドネシア)・早稲田大学(日本)・高麗大学校(韓国)マラヤ大学(マレーシア)・ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)チェラロンコン大学(タイ)・ヤンゴン経済大学(ミャンマー)・フィリピン大学(フィリピン)の大学生80名が参加しました。

本年は、8月9日～11日で「循環型社会の構築」をテーマにオンラインにて実施する予定です。



第8回 カンボジアシエムリアップ

### ■パートナーシップ

#### 「日本ユネスコエコパークネットワークとの連携」

2017年8月に、日本ユネスコエコパークネットワークと当財団は「生態系の保全」と「持続可能な利活用」の調和を目指し、日本国内のユネスコエコパーク(生物圏保存地域)における3つの機能(保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援)に関し、国内初となる連携協定を締結しました。「生態系の保護保全のみならず、自然と人間社会の共生に重点を置く」というユネスコエコパークの理念に賛同し、日本国内の管理運営機関である日本ユネスコエコパークネットワークと連携のもと、ユネスコエコパークのさらなる発展に向けて取り組んでいます。



第1回白山ユネスコエコパークフェア  
(イオン御経塚店)